論文内容の要旨

論文題目　近代ボヘミアにおける農村社会の変容

－19 世紀後半における農村住民・市民・国民をめぐって－

氏名　　桐　生　　裕　子

ハプスブルク帝国下にあったボヘミアにおいては、1848/49 年革命期に、隷農制とそれに由来する諸負担･義務・権利が廃止される。隷農制の廃止は、農民生産の最大の障害を取り除き、その発展の条件を整えただけではない。隷農身分の廃棄によって、農村住民は法的に自由な「市民(občan)」となり、ボヘミアにおいても身分的に平等な市民から構成される市民社会の形成を可能にする法的基盤が与えられたといえよう。こうして新たな政治的･社会的･経済的条件を与えられたボヘミア農村は、国民運動、農業運動の展開をはじめ、19 世紀後半に大きな変容を経験することになるのである。

近年のボヘミアおよびハプスブルク帝国を対象とした研究は、19 世紀を身分制秩序が弛緩・解体し、市民社会的構造への転換が生じた時代ととらえ、その社会の変容を多様な局面に注目してとらえようとしている。このような研究の潮流は、19 世紀のボヘミア、そしてハプスブルク帝国の社会において重要なテーマとなった、国民(národ)をめぐる諸問題を扱う視点をも変化させつつある。近年の研究は、「国民」を身分制が弛緩・解体する近代に

おける新たな社会の編成原理としてとらえたうえで、「国民化」を新たな政治制度の導入、結社やメディアなどを基盤に新たな公共空間が構築され、さまざまなアクターがせめぎ合いながら政治的議論に参加してゆくなかで進行する、動態的過程として考察する必要を示しているといえる。

本論文の目的は、以上のような研究動向を踏まえ、隷農制が廃止される 1848/49 年革命期から 20 世紀初頭の時代を対象として、身分社会的構造から市民社会的構造への転換の過程でボヘミア農村が経験した変容を明らかにするとともに、身分制廃止後の社会変容、農村住民の隷農から市民への変化という具体的な文脈において、ボヘミア農村における国民化の問題について考察することにある。分析にあたっては、隷農制廃止後のボヘミア農村で普及し始める雑誌と結社、それに基づく社会的コミュニケーション網の緊密化といった側面に注目する。そして、雑誌や結社を基盤に新たな「公共圏」が構築されてゆくなかで、身分制社会を構成していた従来の閉鎖的な地域社会がいかに解体・再編され、身分的に解放された農村住民が新たな政治的主体として帝国や社会の運営にかかわる議論に関与していったか、その過程で「国民」という新たな社会の編成原理がどのように普及していったかを明らかにすることを通じて、ボヘミア農村における国民化の問題について検討を行なう。

以上の課題を設定することによって、本論文は次の 2 点において研究史上の貢献をはかることを目指すものである。第一に、これまで農業運動の過程として主に経済的観点から検討されてきた農村住民の政治化を、身分社会的構造から市民社会的構造への転換という文脈において生じたより長期的な政治文化の変化の過程として提示し、ボヘミア農村史研究に新たな視点を導入すること。第二に、ボヘミアの農村における国民化の問題を、身分社会的構造から市民社会的構造への転換という文脈において考察することによって、国民を身分制が弛緩・解体する近代における新たな社会の編成原理としてとらえる新たな視点からのボヘミア、ハプスブルク帝国における国民形成の研究の進展に貢献すること。同時に、従来の国民研究において支配的であった東西国民の二分法において、「非合理的」ある

いは「有機的」とされてきた「東」のボヘミアにおける国民の問題を、市民化、市民社会との関わりにおいて論ずることによって東西国民の二分法を乗り越え、国民研究全般に新たな視点をもたらすとともに、歴史研究におけるヨーロッパと「東欧」という二分法を克服することを試みる。

以上のような目的を持つ本論文は、序章、本論 III 部 6 章、終章から成る。本論は基本的に通時的な流れに沿って展開される。

第 I 部は第一章、第二章の 2 章から構成され、本論文の導入部にあたる。この導入部では、1848/49 年の隷農制の廃止が農村社会にとっていかなる意義を持ったかを明確にするとともに、19 世紀後半におけるボヘミア農村社会の変容の基盤・枠組みとなる条件を確認する。第一章では、隷農制下の農村社会について概観した後、1848/49 年革命における隷農制の廃止の経緯と、隷農制廃止後の農村社会に与えられた制度的・社会的条件について整理する。第二章では、19 世紀後半の農村住民の社会における位置づけ、および農村における出版物や結社の普及の前提となる条件を確認するため、啓蒙絶対主義期から 1848/49 年革命期にかけての農村住民にかんする議論、農村住民に対する啓蒙活動を、主に帝国権力とチェコ系国民主義者に注目して検討を行なう。

第 II 部は第三章、第四章の 2 章から構成される。第二部は 1850 年代から 60 年代を対象とし、農民の「市民」、そして「国民」への育成を目指す隷農制廃止後の農村住民に対する啓蒙活動の過程で進行した、ボヘミア農村における雑誌の普及と結社活動の展開について考察する。

第三章では、隷農制廃止後の農村住民に対する啓蒙活動の一環として発行され、チェコ系リベラル派のコディム（F.S.Kodym）が編集者を務めたチェコ語誌『農事新聞(Hospodářské noviny)』を取り上げ、その読者と言論の空間について考察する。そして、19 世紀中葉のボヘミア農村における出版物の普及状況の一端を示すとともに、農民の「市民」、そして「国民」への育成を目指す啓蒙活動を通じて、農村住民の社会的・文化的実践がいかに変化したかを明らかにすることを試みる。

第四章では、隷農制廃止後の啓蒙活動の一環として設立が開始される農業協会を取り上げ、1850-60 年代の時代を対象に、その設立の経緯と活動について検討を行なう。そして、農業協会という新たな原則や規範に基づく結社的結合が、従来身分制秩序に基づいて運営されてきた地域社会において、いかに新たな「公共的な」議論の空間を生み出して地域社会を再編することになったか、その過程で「国民」という新たな社会の編成原理がどのように地域社会に持ち込まれることになったか、という問題を明らかにすることを試みる。

第 III 部は第五章、第六章の 2 章から構成され、1870 年代から 20 世紀初頭にかけての農業結社と農村社会を考察の対象とする。

第五章では、1870 年代から 90 年代にかけての農村における結社活動の展開について検討を行なう。この時代は一般に、農業利益の組織化が進み、その立法・行政機関における貫徹を求める運動、いわゆる農業運動が展開される時代とされる。そして、これまでの研究において農業運動は主に経済的視点、あるいは政治史的視点から検討されてきた。本章では、当該期に農村結社が急増することに注目し、農村への結社活動の浸透、農村における「公共圏」の拡張、村落社会と領邦・帝国レベルの政治との関係の緊密化の過程として、農業運動をとらえ直すことを試みる。そして、この時代にいかに結社活動が農村に普及したか、結社を媒介として既にナショナルな軸に沿って編成が進んでいた領邦・帝国レベルの政治と村落社会とがどのように結びつき、農村住民の政治的・社会的実践を変化させていったか、という問題について検討を行なう。

第六章は、19 世紀末から 20 世紀初頭の時期を対象とし、農業結社を基盤とし、「国民」別編制をとるボヘミア王国農業審議会のチェコ・セクションが、農業労働者の問題にいかに取り組み、農村における富裕層である農民が農村下層民と取り結ぶ農業雇用関係の再編をどのようにはかろうとしたかについて検討するものである。この作業を通じて、隷農制廃止後の啓蒙活動によって推進された結社活動の階級的性格を明らかにするとともに、国民運動に参与しながら活動するこれらの結社に担われた農村再編の動きがどのような性質を持つものかを解明することを試みる。

以上の内容をもつ本論文は、国民の問題を、他国民や帝国権力との対抗関係に重点を置くのではなく、身分制廃止後の社会の編成原理の転換の過程、そのメカニズムに焦点をあわせて考察した点に大きな特徴がある。

本論文の成果は、大きく次の 2 点にあるといえるだろう。第一に、農村における出版物・結社活動の普及の過程に注目しつつ、当該期における農村住民の社会的･政治的･文化的実践の変化を考察することによって、チェコ国民運動の展開、あるいは国民化の進展が、市民的諸価値の実現を目指す動き、政治文化を含めた広義の文化の変容を伴ったこと、さらに国民化が性差・階層・地域などを基盤に新たな包摂・排除を伴い進行したことを明らかにした点。第二に、以上の発見を通じて、チェコの国民（národ）が従来考えられてきたように「言語的・文化的同質性」に基づいて、全ての住民を等しく含合するものなどではなかったことを明確に示し、近代の国民の興隆を、言語的･文化的に均質な「民族」の再生の過程ととらえる「民族再生論」に対して根本的な批判を行なった点。

このようにボヘミアおよびハプスブルク帝国における国民の問題を、身分制廃止後の社会変容という具体的な文脈、市民社会とのかかわりにおいて考察することの必要性を、説得力をもって示した本論文は、西の「市民的」国民と東の「民族的」国民を対置させてとらえる従来の研究に見られた東西国民の二分法の克服をはかり、国民研究に新たな視点をもたらすとともに、歴史研究におけるヨーロッパと「東欧」という二分法を乗り越えるという点でも一定の成果をあげたと考えられる。